

平成29年度 理科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- [全学年] 「授業評価アンケート」では、「意欲や関心が高まっている」と答えた生徒は1年 89%、2年 81%、3年 74%で、「知識や技能が身に付いている」と答えた生徒は全学年で 80%を上回った。しかし、「表現の場」については、1・2年は 80%以上の肯定的な回答があったが、3年は 70%であった。
- [1年] 観点・領域別達成度検査では、全国平均 57.0%に対し、学校平均 59.1%であった。観点別ではA評価の割合が、「関心・意欲」、「思考・表現」が 2.2~7.3ポイント上回ったが、「知識・理解」が 2.8ポイント下回った。
- [2年] 観点・領域別達成度検査では、全国平均 55.1%に対し、学校平均 49.2%であった。観点別ではA評価の割合が「技能」では 3.1ポイント上回ったが、「知識・理解」が 22.5ポイント下回った。また、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、都平均 56.6%に対し、本校 56.1%であった。「技能」の項目は東京都を 9.3ポイント上回ったが、「思考・判断・表現」、「知識・理解」の項目は 0.8~2.1ポイント下回った。
- [3年] 観点・領域別達成度検査では、全国平均 58.6%に対し、学校平均 48.6%であった。観点別ではA評価の割合が「知識・理解」で 27ポイント下回った。

②課題

- [2学年・3学年] 「知識・理解」を深めさせるために、基礎的・基本的な知識を身に付けさせ、授業内容の理解を高めさせることが課題である。
- [3学年] 自然現象に対して理由を明確にして説明できるように、「表現の場」を意図的・計画的に設定することが課題である。

③具体的な改善策

- 【「知識・理解」を深く身に付けるために】
- 毎回の授業にて、ねらい（身に付けるべき力）を明確に示すことによって、学力の定着を図る。
- 項目ごとに内容の振り返りをするによって学力の定着を図る。
- 【「思考力・判断力・表現力等」の育成のために】
- 実験方法を確認する際に、過去に行った実験を復習させ、注意点や道具の使い方を意識させることで、実験・観察の技能をより深く身に付けさせる。
- 観察や実験結果などから得られる情報を整理してまとめさせ、自分の考えを表現する力を身に付けさせる。
- 観察・実験の班での活動等において、表現力を身に付けるために、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聞く場面を作る。